

競技用追加マットの使用に関する通達

公益財団法人 日本体操協会
体操競技男子強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

【男子強化本部より】

体操競技男子強化本部では、代表選考会となる下記競技会を除く 2026年度のすべての大会において、選手の安全確保の観点から以下の条件で競技用追加マットの使用を認めることと致しました。

つきましては、競技用追加マットの使用については以下の通りとします。

競技用追加マット使用に関する規則

- 使用を認める種目：あん馬以外のすべての種目
- 使用を認める技：3回宙返り（下り）
鉄棒における手放し技
- 使用を認めるマット：競技用追加マット

幅×長さ	厚さ
200×200cm	10cm
200×400cm	10cm

※鉄棒の手放し技で競技用追加マットを必要とする場合、コーチは規定の着地マット上に競技用追加マットを置き（もしくは演技前に置いておく）、手放し技の実施後速やかに取り除く（マットを置いたままであっても影響がない場合はそのままでも構わない）こと。

※選手の演技中に演技台（マット上）に上がることができるコーチの人数は採点規則通り原則1名とする。

※ゆかや跳馬で使用する場合、追加マット上にラインを引き、ライン減点は通常通りとする。（競技用追加マット上のラインについては使用する所属で準備をすること）

※ゆかで使用する場合、演技を中断しての競技用追加マットの移動は認めない。

※競技用追加マット使用の有無に関わらず着地減点および加点については通常通り判定する。

※もしも3回宙返り（下り）以外の（終末）技で使用した場合であってもNDは発生しない。

※本規則は、大会主催団体で競技用追加マットの準備状況に応じて対応することとする。

※本規則は、以下に示す競技会以外の大会で適用する。

- 第80回全日本体操個人総合選手権
- 第65回NHK杯体操